



別記様式2-2号

視察研修等報告書

令和7年4月11日

坂井市議会
議長 戸板 進殿

会派名 創政会
代表者名 田中 哲治

1. 日時 令和7年3月26日(水)～27日(木)

2. 視察研修先

地方議員研究会
リファレンス西新宿大京ビル2階
東京都新宿区西新宿7丁目21-3

3. 視察研修内容

「地域の足」がなくなる？ 交通空白解消セミナー

4. 参加者 鍋嶋邦広 林 豊夏 (2名)

5. 内容詳細
- (1) 交通空白と地域公共交通の役割①
 - (2) 交通空白と地域公共交通の役割②
 - (3) ライドシェアの基礎と課題
 - (4) 交通崩壊の解決策と各地の事例

6. 所見・感想等

○ 鍋嶋 邦広

(1) 交通空白と地域公共交通の役割①

初日午前中の研修においては、地域公共交通に求められる役割と価値について、利用している人だけでなく、何かしらの理由で利用できない人も対象に、移動手段としての価値だけでなく、移動手段があることによって得られる価値についても学ぶことが出来た。

また、松本市や瀬戸市の事例についても紹介され、地域公共交通がまちづくりに与えている効果も知ることが出来、大いに参考になった。さらに、地域公共交通はそもそも、国、行政、交通事業者が維持する責務はなく、利用者も含めた関係者が連携して取り組む事が必要な事であるという事が確認出来た。

（２）交通空白と地域公共交通の役割②

初日午後の研修においては、まず地域公共交通関連の法制度の変遷について学んだ。

２０１４年改正の地域公共交通活性化再生法では、自動車の普及が進み、競争どころではなくなった時代に入り、自治体・事業者・地域が公共交通の活性化・再生に取り組まなければならない、「法定協議会」をつくり、計画策定だけでなく、そのための協議や事業実施をする主体となる場所と定義されている。更に、２０２０年の法改正においては、地域公共交通計画作成の努力義務化が盛り込まれた。この計画に記載すべき事項として、基本方針として、地域のなりたい姿と公共交通の役割の明確化や計画区域の設定、定量的な数値目標他、計画策定における重要なポイントを示唆してもらえ、大いに参考になった。

（３）ライドシェアの基礎と課題

２日目午前の研修においては、まず、日本版ライドシェア（自家用車活用事業）について、今全国で進められている、日本版ライドシェアに関する基本的な用語と制度と目的について、詳しく説明してもらえた。更に、移動手段別の道路運送法上の扱いの違いの説明や移動の仕組みの分類など、ライドシェアだけで移動の問題が解決するわけではない事が確認出来て、大いに参考になった。

２０２３年の地域交通法の法改正において、自治体・公共交通事業者・地域の多様な主体等の「地域の関係者」の連携と協働が盛り込まれた事、更に３つの共創（官民・事業者間・他分野との共創）がこれからは益々重要な視点であることが学べた。

（４）交通崩壊の解決策と各地の事例

２日目午後の研修においては、長く続いたコロナにより行動変容が起き、買い物においても、人が移動して買うのではなく、モノが移動して買う形態に変化してきたと説明があった。更に公共交通の輸送人員もコロナ前と比べ大きく変化し、減ったことも問題であるが、回復しないことも問題となっている。慢性的な運転手不足もありバス路線の減便や廃止も加速度的に発生している。自動運転の本格運用にはまだかなりの時間がかかり、正に、目に見える崩壊と目に見えない崩壊もはじまっていると警告され、公共交通機関に対する「公」の役割の見直しが急務であると感じた。

○ 林 豊夏

「交通空白と地域公共交通の役割１」

今回のセミナーでは、「交通空白と地域公共交通の役割」をテーマに、地域住民自らが交通の課題を把握し、解決策を考えるワークショップの重要性が語られました。特に印象的だったのは、住民が当事者として地域の移動手段について話し合い、納得のいく形で「決める」ことの意義です。行政任せではなく、住民が主体となることで、地域に合った持続可能な交通の姿が見えてくると感じました。坂井市においても、交通空白地域の拡大が課題であり、このような対話の場を通じて住民の声を反映させた交通政策づくりを進めていく必要性を強く感じました。自ら考え、動く地域こそ、持続可能な未来をつくる鍵になると実感しました。

「交通空白と地域公共交通の役割2」

「交通空白と地域公共交通の役割2」のセミナーでは、多様な公共交通手段の中から、地域の実情に応じた最適な選択をする重要性が強調されました。単に手段を導入するのではなく、まず地域の課題を正しく把握し、その課題を解決するためにどの手段が最も適しているのかを見極める視点が求められます。坂井市においても、地域ごとに高齢化の進行度や地理的特性、交通需要が異なるため、一律の解決策では対応できません。デマンド交通やコミュニティバス、自家用有償運送など多様な選択肢を柔軟に組み合わせる発想と、住民との対話を通じた課題の共有が不可欠であると改めて感じました。交通は単なる移動手段ではなく、地域の暮らしそのものを支える基盤であると実感しました。

「ライドシェアの基礎と課題」

今回のセミナーでは、ライドシェアを含む新たな移動手段の可能性と課題について、多面的に学ぶことができました。特に印象的だったのは、「交通空白」地域の解消に向けた取り組みと、制度上の制約の中で自治体や事業者が模索している現状です。坂井市においても、高齢化や免許返納後の移動手段の確保が喫緊の課題であり、ライドシェアのような柔軟な交通手段の導入は検討に値します。一方で、制度・財源・安全面への配慮も不可欠であり、地域の実情に即した導入設計が求められると感じました。

「交通崩壊の解決策と各地の事例」

「交通崩壊の解決策と各地の事例」というセミナーでは、地域の公共交通が抱える深刻な課題と、それに対する全国各地の先進的な取り組みが紹介されました。特に印象に残ったのは、三条市や松本市のように、AI デマンド交通やエリア一括協定運行などを活用して、利用者の利便性と自治体の負担軽減を両立させている事例です。単なる便数の増減ではなく、「移動の質」をどう高めるかという視点が鍵であると感じました。坂井市においても、高齢者や免許返納者の移動手段確保は喫緊の課題であり、制度や仕組みを柔軟に活用した地域ごとの再設計が必要です。崩壊を食い止めるのは、地域が自ら動き、学び、試す力だと強く実感しました。

7. 添付書類（写真・コメント）



会 派 内 供 覧